



本号の主な内容

- 2,3 面 特集 造園領域での情報技術の活用について  
インターネット、CAD、電子入札など情報技術が普及・進化  
3 面 【学会の目・眼・芽】第 22 回 濱野周泰氏  
造園が創り出すものの科学性と技術  
【緑 滴】お接待の心 山口昌宏  
4 面 【協会だより】中国総支部、四国総支部、中部総支部、沖縄総支部ほか

東日本大震災において亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し  
上げますとともに、ご遺族の皆様へ深くお悔やみを申し上げます。  
また、被災された皆さま並びにご家族、ご関係の方々に心  
からお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。

## 東日本大震災対策本部を設置

### 被災地会員への支援活動など実施

平成 23 年 3 月 11 日、14 時 46 分に宮城県沖、15 時 15 分に茨城県沖で相次ぎ大規模地震が発生。この「東北地方太平洋沖地震」の発生に伴う津波などにより、東北地方、茨城県、千葉県を中心に、北海道から神奈川県に至るまで、戦後最大の死者・行方不明者という想像を絶する惨事に見舞われた。

日造協では、3 月 12 日、の災害応急対策に取り組む

13 日、電話、メール等による被災状況確認の連絡を実施。

また、3 月 13 日付で、「緊急通行車両等確認証明書等」の迅速な発行手続きについて、警察庁に対して「被災地域への災害応急対応のため、緊急通行車両等確認の申請があった場合には、迅速に対応いただけるよう依頼した旨通知があり、両件について、会長名で各会員当てに通知いたしました。

3 月 16 日、総務委員会、本部に「地震災害対策本部」を設置、本部長、副本部長、事務局等を決定。当面の活動方針として、①会員の被災情報の収集、②被災会員の被災地域に対する義援金募集等を掲げ、合わせて、①創立 40 周年事業の再構築、②本部・支部等事務所の災害時応急対応備品の購入、③被災地の会員に

対する「会員実態調査」の実施方法の検討を行った。3 月 18 日、運営会議で、①東北地方太平洋沖地震に伴う復興支援調査の実施、②本部に「東日本大震災対策本部」設置と概要を決定。

#### 対策本部の組織と役割

役職	氏 名	役 割
本 部 長	会 長：藤巻 司郎	地震対策の全般統括
副 本 部 長	副 会 長：林 輝幸	本部長の補佐
本 部 員	会 員：木吉 新一、佐和 新一、高橋 新一、梅村 新一	●安否情報収集・発信・共有、義援金の募集、広報対応、会員救済処置の検討、支援活動の指揮 ●海外との情報交換による義援金等の対応 ●造園空間被災実態、防災体制の実態、公園緑地の役割等に関する調査の実施の検討等
事 務 局	本 部 事 務 局 員	

会員の被災情報の収集とを決定。被災会員に対する見舞金支出・義援金の募集、造園工事完成物の被災実態、防災体制実態、公園等の防災効果等の調査の実施体制づくり等を当面の活動とすることとした。

## 通常理事会を開催

### 東日本大震災対策など報告

平成 22 年度第 2 回通常理事会を 3 月 25 日、15 時より、東京都千代田区の弘済会館で開催した。

理事会は冒頭、藤巻会長があいさつ。「東日本大震災が発生し、2 万人を超える方々が死亡・行方不明という大災害に至っている。ご来賓の小林昭国土交通省加えて、福島第一原子力発電所の被災による放射能拡

## 総支部長等会議を開催 4 案件を審議、承認

総支部長等会議を 3 月 25 日、12 時半より、東京都千代田区の弘済会館で開催し、①公益法人制度改正、②東日本大震災に係る対策、③入会に関する取扱要綱の改正、④日造協創立 40 周年記念事業の再構築の 4 案件を審議し、承認した。

## 樹 林

はじめに、このたびの「東北地方太平洋沖地震」において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、犠牲になられた方々そしてご遺族の皆様に対し、哀悼の意を表します。

協会より本編の原稿を依頼された直後の 3 月 11 日 14 時 46 分、私が東京に生まれ育って 60 年余、過去に経験の無い大きな揺れに遭遇しました。震源は何百キロも離れた宮城県沖と聞いてこれは大変なことが起こったと直感しました。案の定刻々と入って来る被災情報、追い打ちをかけるような原発事故の発生と、しばらくは目を追って拡大する深刻な被災状況を目の当たりにし、ただ茫然とするばかりでした。

この様な時こそ何かお役に立てるような

提言や行動を起こさなくてはと、気持ち急いでも思いは整理がつかず、急遽この度の災害に対して造園建設業に携わる人間として、私の感じた事、そして思いを書かせて頂くことにしました。

被災地復興へ向けてのプロセスは、まず

## 「東北地方太平洋沖地震」について思うこと

日造協理事、(株)日比谷アメニス 奥 本 寛



被災者の救出、ライフラインの復旧、そして住宅・食糧・医療を中心とした日常生活の安定と安全の確保が第一と考えます。そして、その後は経済の復興にむけて新たな街づくりに取り組まなくてはなりません。この度の東北地方太平洋沖地震は地震の揺れよりも津波の被害が大きくあります。町を元通りにするだけでは解決しない

計画の提案や、技術を提供することが重要だと考えます。私達の役割は、どこからか声がかかるのを待つようなことではなく、一日でも早くそして納得のゆく復興へ向けた積極的な提言をまとめ、連携した行動を起こすことだと思います。

(株)日本造園建設業協会においても震災後努力を積み重ねていきたいと思っています。



# 情報技術が普及・進化 活用について



内山緑地建設株式会社のホームページ

内山緑地建設株式会社（本社・福岡県久留米市）の情報化のポイントは、効率化と活用、そして安全管理だ。同社の情報化は20年以上前にさかのぼり、当初からパソコン1人1台を推進し、メールの送受信を開始。効率化と活用でもっともわかり易い例が、「テレビ会議」で、9年ほど前に導入。現在のシステムは4世代目となる。

東京在勤者をはじめ、20〜30人が本社に集まると、旅費だけでも相当額で、移動時間などのロスもなくなり、導入効果は大きい。現システムは、全事業所を結んだ会議も低コストで運用でき、役員会をはじめ、定期的な会議、入社式にも活用。事業所間での打ち合わせなどにも利用している。

松本吉廣副社長は、「システムの導入で、決済に要する期間を短縮、業務を可視化することができ、情報の一元管理により、検索や再利用が飛躍的に向上。書類だと、郵送中だったり、現在の所持者がすぐにわからなかったりしますが、現システムは、起案した人も、随時、現在どこに回っているかを知ることができ、稟議書、受注決裁などは、スピード化が求められるに、組織が大きくなるに従い遅くなりがちになる

## 効率化と活用と安全管理

内山緑地建設株式会社

2001年6月、国土交通省が公共事業に関する電子化「CALS/EC」を進めるため、地方公共団体での普及に向けたアクションプログラムを策定し、2007年を目安に国、都道府県、政令指定市への普及完了、2010年には市町村を含めた全ての公共工事の発注への導入を目指すとしたことを受け、翌7月の広報「日造協」336号から「中小建設業のための情報化」を2号にわたって特集。当時電子入札に即対応可能な会員は11%であり（341号）、その後、情報化に向けた対応策などを紹介してきた。それから10年、電子入札は今や一般化、インターネットをはじめとする情報技術はさらに進化し続けている。そこで本号では、情報化における最近の動向として、会員の取り組みの一端を紹介する（次号「賛助会員の情報関連サービス紹介」に続く）。

思決定もスピーディに行えます」と、効果を語る。

今回の大震災では、被災地でのデータ消失や停電に

よる障害も危惧されたが、情報の一元管理は、バックアップも容易で、他地域で保管することにより、消失を防止。効率化だけでなく、安全性も高められる。同社では、経理や原価管理、人事に関する情報も行われており、各事業所で作成されたデータも本社のサーバーで一元管理。バックアップ体制も備えている。

松本副社長は、「情報の一元管理によって、月次処理も素早く行え、迅速な経営判断が可能。さらに、停電など事業所での業務が困難な場合も、本社や他の事業所での入力を代行できるなどのメリットもあります。ただ、こうした情報化において、一番気を付けなければならないことは、重要な情報を大量に、瞬時に、簡単に取り扱うことが可能になったため、その取り扱いに十分注意しなければならぬということ」。

こうしたことから、同社では、通信データを暗号化したり、第三者から隠すなどの処理を行うVPNを導入するなど、セキュリティ対策も行っている。

や統一感などから、細かなアクセス権限の設定や書式の統一などを行いがちだが、必要以上に行うと、却って利便性を失い活用されないシステムとなってしまう。

このため、同社では、グループウェアのスケジュール（GALAXY Tab）やアイパット（Pad）の活用を検討している。

「私たちの仕事は、なかなか言葉だけでは伝えられません。プロジェクトやスクリーンを持ち込むのは仰々しく、見せることを前提としていないノートPCやソフトでは、ちよつと物足りません。さつと手軽に見て貰えるタブレットを活用することで、私たちの仕事をよりわかり易く伝えることができます」と、現在研究を進めている。

## ホームページをどう使うか

（株）武田園芸



（株）武田園芸のホームページ

（株）武田園芸（本社・山形県東根市）の情報化における特徴はホームページで、転機は平成20年。経済産業省の施策による県の助成で銀行がIT化入門セミナーを開催。武田和博社長が受講したのがきっかけだ。

「2日間にわたるセミナーは、財務・経理ソフトなどを活用した経営管理の合理化とインターネットの活用がテーマでしたが、会社の規模や現状から、インターネットに魅力を感じ、ホームページを見直すこと

にしました」と武田社長。これ以前も同社では、専門業者にホームページの作成を依頼し、活用を図ってきたが、セミナー後、県から派遣して貰ったアドバイザーに意見を伺い、リニューアルすることにした。

「アドバイザーの方は、中小企業診断士でもあり、いろいろな示唆をいただきましたが、樹木や庭のことは、当然わかりません。ですから、こちらの意図を理解して貰いながら、アドバイスを得ました」。

ホームページの専門家というところ、最新技術を駆使したり、華やかなデザインに走りながら、顧客が求めるものは、そうしたものではなく、どういう会社なのか？、安心して任せられるのか？で、これに込める情報が必要で、より重要な情報が必要だ。

このため、トップページには、同社の専門分野、お客様の声、人気商品ランキング、ホームページのメニューがあり、「和風・洋風の新作施工事例」「作品

効果をもたせたい」と武田社長。この結果、同社への問い合わせは2〜3倍になり、肥料や表札等の売り上げも伸びている。

同社ではポスティングも実施。この効果も問い合わせ増の一因だが、ポスティングを見た人がもっと知りたいとアクセスする傾向もあり、ほとんどの顧客が何らかの形でホームページを閲覧しているという。

武田社長は「ホームページは、営業ツールでもあり、PCを参拝することもありますが、逆にお客様の方から、当社のホームページを開いて、「ここにある庭の賞歴として、日造協の全国造園デザインコンクール入



特集 インターネット、CAD、電子入札など

# 造園領域での情報技術の

## 便利なーTを自然に利用

(株)田中造園土木

(株)田中造園土木(本 期・2010年11月6日) 社・大阪市)は、2010 2011年4月25日)への 映像は、博覧会の目玉と 台北国際花卉博覧会(会 出展経緯をまとめたDVD なったパビリオン「美の競



賞作品なども掲載。「私は CADではなく、手書き図面ですが、個人のお客様は、それに好感を持たれているようで、作品図面アルバムへのアクセスも多くなっています。また今後、力を入れていきたい工場緑化管理

(株)田中造園土木のトップページ④  
今回作成したDVD⑤



日造協では、街路樹剪定士指導員を務め、技術を守り伝えながら客土をしないイベントガーデン工法を生み出すなど、新たな取り組みにも積極的だ。

艶館」での「国際インドアフラワーコンテスト」出展庭園の施工前の現地での事前打合せから、来場者の様子までを記録。庭園の作品名は、「奔向自然」(Fly to Nature)で、来園者がリラクセスできる空間を実現した。

そもそも今回の花博への出展は、同社・田中明男代表取締役社長が平成21年、造園工で初めての大府府優秀技能者「なにわの名工」を受賞し、それを知った台湾側が出展を依頼したのできつかけ。

田中社長は、「どうせやるなら、その模様を記録、40分にまとめました。インドアの日本庭園づくりを扱ったDVDはこれまで見たことがなく、今後の参考にして貰えればと、一部は2千円で販売し、自社の営業ツールにも活用できます」と制作意図を語る。

長の趣味であるバンドのライブや観た映画、食べ歩きなど、私的な内容も盛りだくさんで、顧客として考えると、社長の人柄、日々の仕事ぶりがうかがえる内容は、逆に安心して任せられる会社、社長という評価に

## 学会の目・眼・芽 第22回

日本造園学会が刊行している造園技術報告集第6号の編集を責任者の立場で担当して、改めて造園技術とは何かを考えさせられました。学会の学術刊行物として、この造園技術報告集へ投稿された論文を掲載するにあたり編集委員も同じように造園技術とは何か?技術論文の審査はいかにあるべきか?の課題と向き合いながら編集作業を進めてくれました。投稿された論文が最終原稿として提出されるまで、査読をお願いした方々にも造園技術とは何かの悩みを抱かせたものと考えています。この審査過程を経ることで日本造園学会が公開する学会誌としての公平と普遍の価値を備えることになりました。この課題は、6号の発刊に到るまでの各号の編集に関わった各委員にも共通するものです。本号で創刊以来270編余りの論文によって造園技術が社会へ発信されました。

## 造園が創り出すものの科学性と技術

造園技術は「時と場」によって形成される多様な条件の下で展開されています。造園技術報告集第6号には、41編の技術論文が収録されています。収録論文は、みどりを題材とした伝統的な地域の技芸を展開する上での技能、みどりを中心とした地域の計画やそれらの策定に関する手法や方策、市民によるまちづくりの手法や協働による緑地の管理方法、さらには計画の視点からみた作品の評価法まで幅広い分野に及んでいます。また特定の植物の種類に関する、造園的取り扱いについての基本的な論文も掲載されています。また地域の限定された環境下で、あるいは再現性が担保できない単独・歴史的対象に展開される技術など科学論文として公表するには、難しい判断を求められるものまで収録していることも、この技術報告集を特徴づけています。

造園の大きな使命のひとつである「ものづくり」が行われているかぎり、技術は無くしてはならないものであり、まさに技術と向き合うことは宿命と言わざるを得ないものです。今後も造園技術とは何かについて議論を交わすとき、「科学」は必ず突き当たる課題であることを思考の片隅に必ずおかなければなりません。

被災された方々とお亡くなりになられた方々へお見舞いと哀悼をお祈り申し上げます。

意点として、「一番のポイントは、変な業者に騙されないこと。一度契約するとなかなか解約できないなどの話も聞いています。行政からの紹介など、信頼できる方との出会いが最も重要なのは」という。

(社)日本造園学会理事・東京農業大学教授 濱野 周泰

## お接待の心

四国は温かい国だ。気候も然ることながら人の心が温かいのである。この国には弘法大師(空海)が遍路修行をしたと伝えられる88カ所の寺を巡るお遍路道がある。その距離1100キロとも1200キロとも言われている。



緑 滴

四国の人々は、この巡礼者たちに対して「お接待」という風習を持ち続けている。道端でミカンを売っておばさんが、お遍路さんと呼び止めて売り物のミカンを「食べて行けよ」と握らせる。寺の門前ですれ違った地元のパライロの奥さんが、小さな紙袋に入れた五百円玉を「お接待させ

焚いて待つ集落の人。道の草刈り、道の標識を直すボランティアの人、人。登校する小学生や中学生が「おはようございます。頑張つて」と声をかけてくる。茶髪の高校生が自転車に乗ったまま「おはよう」と声をかけて走り去る。

何と特別な人たちではなく、ごく普通の庶民がさりげなく日常の習慣として、訪れる巡礼者たちに接するのである。これらの人々に助けられ、励まされながらお遍路さんたち

て」と差し出す。お遍路道に接する自宅の軒先を改造し、そこにイスとテーブルを置き、ポットに入った熱いコーヒーを「どうぞ、飲んで行つて」と無人の接待所を提供する。古家を改造して、何時来るとも分らないお遍路さんを囲炉裏に火を

山口昌宏 (株)岐阜造園



